



プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「絡まった“ひも”を地道に解いていく」号

2012年2月16日 (Vol.24)

目次

はじめに -シエラレオネ全国を視野に入れて-

1. 現場活動の実況中継

実況中継 1. 県議会が一体となって

実況中継 2. 「上から目線」から「住民の目線」へ



シエラレオネ



プロジェクト対象県

2. 新連載! 専門家の一日: 「便座の調達から大臣との協議まで」

3. プロジェクトの進捗報告

3.1 県開発モデル構築: フィーダー道路パイロットプロジェクト

3.2 村落開発モデル構築: モデルワードプロジェクト

3.3 研修計画

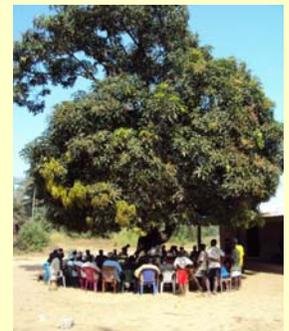
4. 新企画 あの供与機材は、今、。。

5. 現地研修を開始して

6. コラム: ごつつあんです、シエラレオネ!

6.1 第18話 -レバノン風大衆食堂-

6.2 第19話 -ちょっと見スイーツ、でもフルーツ-



*プロジェクトHPにもアクセスください: <http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>

はじめに –シエラレオネ全国を視野に入れて–

2012年最初のプロジェクトニュース発行となりました。今回で24回目の発行となります。何回まで発行できるでしょうか。私たち専門家チームの挑戦は続きます。

プロジェクトニュースは日ごろの専門家業務が、同時にプロジェクトニュースの取材にもなります。専門家一人ひとり非常に忙しい日々を送っていますが、広報記事を書くことで、自分自身の活動を見つめなおす機会にもなります。常日頃から何を意識し、どのようなやりとりをカウンターパートとしているのか、省みる機会になります。

専門家チームの業務もカウンターパートである県議会や本省職員のいいお手本になるように、日々緊張感を持って、報告・連絡・相談の「ほう・れん・そう」の徹底と定着をはかります。「言うは易く、行うは難し」といいます。カウンターパートに働きかけるためには、自戒の念もこめて、専門家チームの連携がお手本になるように、専門家一同、日ごろから心がけていきます。

北海道よりも小さい、シエラレオネ。プロジェクトも開始から2年以上経ちました。これからはポートロコ県・カンビア県で得た成果や学びを実務書としてまとめ、シエラレオネ全国に発信することを視野に入れ、支援する段階に入ります。

2012年の本プロジェクトの重点活動は①伝道師の発掘と育成、②「伝道師」が使う資料の整備を進めること、としました。

「伝道師」は例えですが、プロジェクトの成果に心から賛同し、先頭に立って他県の関係者に伝えていく県議会職員のことを指します。現在、「伝道師」の芽が出てきています。

伝道師が使う資料とは、「県・村落開発ハンドブック」のことを指します。県・村落開発ハンドブックとは、シエラレオネの関連法や政策ではカバーしきれない、日々の業務に必要な具体的な業務の進め方を本プロジェクトで得た学びに基づいてまとめた実務書になります。

昨年から今年にかけて、ポートロコ県からカンビア県までの主要幹線道路がEUの支援により整備されました。地方のインフラは各国の支援により徐々にではありますが、整備されています。

本プロジェクトでは、住民のニーズに基づき社会・経済インフラを整備することはもちろんですが、それ以上に重要な目的は、シエラレオネの行政と住民代表者が協働して事業管理する「仕組み」や「体制」の成功事例をシエラレオネに残すことです。その成功事例を普及するのは、シエラレオネの地方行政や本省の関係者になります。



カンビア県までの幹線道路（工事前）



カンビア県までの幹線道路（工事後）

1. 現場活動の実況中継

実況中継 1. 県議会が一体となって ー研修計画ー

本プロジェクトで支援する県議会の県・村落開発プロジェクトの実手順は、将来、県議会独自の財源、もしくは外部からの財政支援を利用して実施することを想定しています。

県議会は現地 NGO や住民代表グループの補助金申請や補助金による事業管理を支援し、監督する役割も担います。

今回は、在ガーナ日本大使館が管轄する「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を例とし、ワード委員会等の住民代表グループによる自身の地域開発プロジェクト案の申請、実施支援を県議会ができるようになることを目的として、ポートロコ県とカンビア県議会で説明会を開催しました。

説明会には両県議会ともほとんどの職員が参加し、それぞれの職務の視点から積極的な質問がありました。県議会が一体となった内容の濃い議論ができました。



県議会職員への説明会（写真中央が反町専門家）

特に、申請するプロジェクト案は、県開発計画に沿って作成されるべきであり、その支援を県議会が実施することが確認されました。これは、本プロジェクトで支援しているモデルワードプロジェクトやリーダー道路プロジェクトにおいて、県開発計画との整合性、県の他セクター事務所との協調を重点的に支援している成果ではないか、と感じました。

この説明会で確認した県議会の支援体制について、次回は県議会職員がワード委員会に対し説明します。今後、地方行政と住民代表者が協働して地域開発管理する体制を築くきっかけができたのではないかと思います。

反町専門家（研修計画担当）

実況中継 2. 「上から目線」から、「住民の目線」へー村落開発モデル構築：モデルワードプロジェクトー

県議会のモニタリング・評価担当官（以降、「M&E 担当官」）は、県開発計画に基づいた各種プロジェクトの進捗を管理し、各省庁の県事務所や NGO に必要なデータを提供する業務を担当しています。モデルワードプロジェクトの計画立案段階では開発担当官が主要な役割を担っていましたが、これから数か月間は開発計画担当官の指導の下で、M&E 担当官が公共施設等の建設工事における進捗管理や住民動員等を担当します。

カンビア県議会のカボ氏は、空席のM&E担当官の代理として去年の1月に辞令を受けてから、もう1年ほどになります。モニタリング研修等を受けた彼ですが、研修の効果を実務に反映させる機会がなかなか得られませんでした。

そこで昨年9月、モデルワードプロジェクト開始直後に開催されたワード委員会向けのワークショップで、カボ氏はファシリテーター役を務めることになりました。しかし、「ファシリテーター役は簡単だ」と言い、ワークショップの準備に身が入りません。



住民にプロジェクト概要を説明するカボ氏

ワークショップ当日、「オーナーシップが大事」と説く彼に対し、参加者から

「オーナーシップが大事なのは分かったけれど、住民のオーナーシップを確保するにはどうすればいいのか？」という鋭い質問が彼に向けられました。暫し絶句している彼に助け舟を出したのは、県議会議員や他のワード委員らでした。

モデルワードに選ばれているだけあって、ワード委員らの知識も豊富です。早速、その日の夕方の反省会で、我々から助言・指導します。本プロジェクトの目的は何か、モデルワードで得る知見が彼の将来の業務にどのように役立つか、一生懸命に仕事をすれば何を得られるのか、を問いかけ諭します。彼の「やる気」に火を付けるための荒治療です。

その後、カボ氏の仕事に対する姿勢に徐々に変化が見られるようになりました。熱心にモデルワードプロジェクト詳細実施要領を読み返し、一生懸命議事録などを書く姿が目につくようになりました。地方行政の先端を担う職員として、彼も良心とプライドを持って取り組んでいます。

特に、住民への啓発の機会では、以前の彼は上から目線で話していましたが、最近では住民の目線で接する姿が見られるようになってきました。 地方行政官として一番大切なことのひとつである住民の目線、に徐々に気がついていく彼を見て、JICAの技術協力プロジェクトならではの醍醐味を感じています。村で行う現場業務は、そんな彼の小さな変化を観察できる貴重な場となっています。

佐藤専門家（村落開発担当）

2. 新連載！専門家の一日 —便座の調達から大臣との協議まで

話はプロジェクト開始当初にさかのぼります。当事は首都と地方の事務所整備、地方にあるプロジェクト宿舍整備、本省と県議会との協議などで、首都と地方を頻繁に行き来する忙しい時期でした。

そんなある日、「宿舍の便座にひびが入ったので、取り替えて欲しい」と地方駐在する専門家から電話がありました。便座は毎日使うものですから、翌日調達して届けることにしました。丁度、県議会と打ち合わせするタイミングでもあります。

強度の高い便座は地方では手に入らない品です。給水栓やドアノブなど宿舍の備品はよく壊れました。交換のため、首都でしか手に入らない細かな資材調達 するのも首都に駐在する自分の役割です。

翌朝、ひとまず地方自治地域開発省内にあるプロジェクト事務所に行き、所用を済ませ、町で便座などを調達する予定でした。午後になると町中は渋滞が激しくなり、1～2 時間はすぐに経ってしまい、予定を消化できなくなります。

ところが、その日大臣から「これから打ち合わせがしたい。」という直々の電話がありました。「便座を買いに行くので、今日は失礼。」などは、とても言えません。忙しい大臣から直接声がかかった貴重な機会です。一対一で話をし、本プロジェクトの内容をしっかりと大臣の頭にインプットしてもらおう絶好の機会です。

大臣とはプロジェクトの計画について話をしましたが、その後いつしか話は脱線し、ご自身の出身地、外交官時代へと話は続きます。

時計を気にしつつも、有意義な大臣との話を終えました。さあ、調達のために、町に向かいます。資材屋が並ぶ通りは、荷を降ろすトラック、物売りの人々などでひしめくにぎやかなところです。

通りに並ぶ資材屋さん一軒一軒を回り、お目当ての便器を探します。しかし、なかなか良質な便座を売っている店が見つかりません。日中の強い日差しを受け、汗も噴出してきます。何件か回って、ようやく良質の便座を見つけ、見積り書を収集し、便座を購入することが出来ました。他の細かな備品も購入して、これから地方へ出発です。

一言で言うと、「便座の調達から大臣との協議まで」、が自分の仕事と言えるかもしれません。

(平林リーダー)



専門家が生活する宿舍のトイレ



本省での会議風景。写真中央が大臣。



資材屋通り：朝の風景。まだ静かです。



資材屋通り：午後の風景。歩くのも大変です。

3. プロジェクトの進捗報告

2011 年度実施予定の主な事業		
主な活動	予定	進捗状況
県・村落開発ハンドブックの草案及び普及計画の策定	2011 年 5 月までに目次案を作成。 2011 年 6 月からハンドブックの草案作業を行う。	第 2 回ハンドブック委員会の日程調整。第 2 回同委員会会議は 3 月 6 日に行う予定。
村落開発モデル構築：モデルワードプロジェクト	フェーズ 1 (2011 年 6 月～2012 年 5 月)：カンビア県 4 件、ポートルコ県 2 件 (社会・経済基盤整備) のモデルワードプロジェクト支援を通じ、村落開発モデルの構築を行う。	6 つのモデルワードにおいて選ばれた案件 (工事) にかかる調達支援を進めた。また、モデルワードプロジェクト開始当初に作成した詳細計画をベースに、詳細仮説の再構築検討を開始。
県開発モデル構築：フィーダー道路・カルバート改修パイロットプロジェクト フェーズ 1 ターム 2	フィーダー道路改修計画を支援し、県議会の実施体制と機能把握、課題を抽出し来年度開始するモデル事業のモデル案を作成する。 ターム 2 改修工事内容： ポートルコ県：道路全長 11.8km, カルバート 30 箇所、表面排水溝 5 箇所 カンビア県：道路全長 15.1km, カルバート 32 箇所、表面排水溝 5 箇所	両県にて起工式を実施。業者への前払いが完了し、現場工事開始。施工管理・維持管理計画について支援を行う。
研修事業	県議会職員、ワード委員会メンバーへの国内研修、第三国研修。パイロットプロジェクトのインパクト調査実施。	県議会職員向けのガーナ第三国研修準備。県議会職員向けの国内研修委託先の ILO との協議。県議会職員に対し、人間の安全保障・草の根無償にかかる説明会実施。BO 県へのスタディツアー準備。
村落開発ポリシー策定	村落開発ポリシー作成タスクフォースメンバーとして、同案作成を支援、2011 年中に草案をまとめ閣議に提出。	閣議審議結果をフォロー。村落開発ハンドブック印刷支援の準備。

3.1 県開発モデル構築・フィーダー道路改修パイロットプロジェクト：2 年目の改修工事の実施

シエラレオネでは、農村地域の生活に重要なフィーダー道路は状態が悪く、その改修は道路局・県議会の課題です。フィーダー道路改修プロジェクトでは、これらの業務にかかるカウンターパートの能力向上を目指し、道路計画の策定 (優先順位の設定) と県議会が主体となる体制を構築し、他のセクター、特に道路局と協調しながら事業を進めることをテーマとしています。

さて、2011 年 12 月 21 日に業者と契約したフィーダー道路改修工事ですが、1 月に入り両県とも準備期間を経て本格的に工事が開始しました。沿線の草刈り、工事用の測定の杭の設置から始まりました。本チームは、両県とも事業の効率を鑑みて、1 路線ずつ (ポートルコ県 12 km、カンビア県 15 km) 選定しています。工期は乾季のおよそ 1 月から 5 月までの 5 か月間。施工業者の力量と施工監理の適切さが求められます。

施工監理は、県道路局と県議会による共同作業です。基本的に、県道路局が技術的な監理、県議会が全体的なモニタリングを実施します。このような作業分担も以前ははっきりしていませんでした。本プロジェクトを通じてパイロット的に効率よく監理できるか検証します。

忙しいエンジニアや県議会職員達が、一同に会することができるのは週に一度あるかないかです。そのような中で、レポートや携帯電話によりコミュニケーションをとりながら情報を共有していきます。今はプロジェクトチームがその間に入りつつ、そのたびに適切な方法を助言し、より良い施工監理体制の構築に向けて試行している段階です。

工事における県議会の役割のうち、道路沿線住民の啓発活動も重要です。施工後の維持管理は県議会が管理者となり、沿線住民が主体的に維持管理する体制を構築しています。

住民への維持管理説明は、施工後に実施しては遅く、計画段階から徐々に行う必要があります。工事前から県議会が中心になり周辺住民に説明に回りました。また、施工開始時には、業者と共同で、伝統的有力者や県議会議長、地方地域開発省の大臣、議員、住民等関係者を呼んで盛大に起工式を実施しました。

また、週に一度、集落を移動しつつ、現場で業者と住民によるミーティングを実施しています。これによって工事の進捗を確認するとともに、住民に工事、そして自分たちの道路に対して興味を持ってもらおうとしています。

県議会特にエンジニア自身は、住民をプロジェクトに巻き込む重要性をよく認識し、上記の活動を積極的に、そして主体的に活動しています。「プロジェクトの成功には、住民のオーナーシップが大切で、県議会はその促進に長けており、重要なポジションなんだ」これは、ポートロコ県のエンジニアの言葉です。この言葉を実践できるようにサポートすることがプロジェクトの役割でもあります。

フィーダー道路は、そこに住む住民の生活のためです。そのために彼らのオーナーシップの醸成と良い道路を作るための業者の監理が求められます。カウンターパートが主体的に実施できるよう、この経験を教訓としてまとめていきます。

宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理担当）

【今月のエンジニア】



カンビア県のジボ氏。カルバートの検査をしています。構造の確認は施工監理者の重要な仕事で、熱心にチェックポイントを質問していました。専門家・他スタッフと一緒に活動する本プロジェクトは、OJTの場として非常に有益だそうです。



カンビア県の起工式。道路局のエンジニアのスピーチを聞く大臣（手前）と県議会議長（右隣）



ポートロコ県の現場ミーティング。多くの住民が参加しています。

3.2. 村落開発モデル構築・モデルワードプロジェクト：絡まった“ひも”を地道に解いていく

パイロットプロジェクトを実施した 32 ワードから、キャパシティ・アセスメントの結果に基づいて選出された 12 ワードへの支援を行いながら村落開発モデルを構築していきます。モデルワードプロジェクト・フェーズ1では、県議会と住民代表者が協働して県開発計画と住民のニーズを調和させた村落開発の事業管理が行えるように能力向上を図ります。

現在、県議会は計画段階と実施段階との間にある工事施工業者の調達に取り組んでいます。モデルワードプロジェクトでは、可能な限り県議会の調達の仕組み・手順を採用しています。シエラレオネの調達法は調達プロセスの透明性・公平性を維持し説明責任を果たすための調達基準、関係者の役割や手順を定めています。しかし、法で定めた手順と実務とのギャップ、或いは慣習でなおざりにされている手順など、改善すべき点はあるようです。



パソコンと格闘する調達官ファボ氏

調達担当官のファボ氏は一連の調達プロセスや書類作成に慣れているはずなのですが、業者リストを見せてほしいと頼んでも、なかなか出てきません。初めのうちは「業者リストはある」と言っていた彼も、各業者の細かい業績を問うと「私は着任してから1年しか経っていないのに、全部知っているわけないだろう」と答えます。結局、業者の実績を調べる必要性和意義を言って聞かせて、調達官に各業者やその他の機関に電話してリストにある業者の業績を調べてもらいます。出来上がったリストを一緒に眺めながら、今後の取り組み方を話し合います。調達に関するデータ整備への助言も重要です。

さらに、一本指でパソコンと格闘する調達官にとっては、入札書類の作成も大変な作業なようです。数ページにもなる数量明細書の内容をワードで作った入札書類に打ち込む、と調達官は言います。そんな彼をなだめて、コピー&ペーストの極意(!)を目の前で見せます。両手を叩いて喜ぶ彼と一緒に1週間ほどパソコンと格闘して、1月末には指名競争見積合せに必要な書類が準備できました。

この数日間、調達官は見積り書の開封と評価に必要な書類を作成しています。一つ驚いたことがありました。調達官は私を呼び止め、横に座るように言い、彼がコピー&ペーストを駆使して提出書類チェック表を作成する様子を見せてくれました。調達官のパソコンの技術も上達しているようです。「ほら、私にもできるだろう」と自慢する調達官を横目でみながら、彼に助言した甲斐があった、とほっとしました。

県議会の業務にある課題は、業務の仕組み、業務体制、そして個々のスキルが複合的に組み合わさっているようです。我々専門家の仕事は複雑に絡み合った“ひも”を一刀両断するのではなく、地道にカウンターパートと一緒に解きほぐしていく作業の毎日です。

佐藤専門家（村落開発担当）

3.3. 研修計画：

研修計画では、県議会職員及びワード委員会を対象に、効率的かつ効果的な県・村落開発管理できる能力向上を図ることを目的にしています。県議会職員、ワード委員会の能力を如何に延ばしていくか、成果をどう実感してもらうのかを考えながら研修を計画・実施しています。

研修は、シエラレオネ国内での外部委託研修や On the Job Training(OJT) だけでなく、幅広いスキームを活用した研修を計画・実施しています。

そのひとつが、ガーナへの第三国研修です。JICA では、ガーナ公務員研修センター(CSTC) への機能強化プロジェクトを支援しています。1 月末に CSTC を訪問し、本プロジェクトのカウンターパート研修を CSTC で実施可能性や CSTC プロジェクトとの連携について、関係者と協議をしました。

また、2 月末にはシエラレオネ南部へのスタディツアーを計画しています。シエラレオネ全国 19 の市議会評価で第 1 位となった Bo 市議会を本プロジェクトのカウンターパートであるポートロコ県・カンビア県議会職員が訪問し、事業運営管理の好事例を学ぶことを企画しています。



CSTC：ガーナ公務員研修センターにて。(高橋専門家：写真左、ドラ校長：写真中央、反町専門家：写真右から 2 番目)

また、同じく南部にある Pujehun 県には元 Kambia 県副主席行政官（現 Pujehun 県副主席行政官）がおり、本プロジェクトの成果や課題等を共有してほしいというオファーを受けました。この要請に答え、本プロジェクトカウンターパートとの意見交換会を企画しています。

これらの研修の計画・実施と並行し、県議会の研修の情報共有、評価体制についてもカンビア県、ポートロコ県の人事担当官と協議をしています。現在の県議会内部の情報共有体制は十分ではありません。特に研修に関しては、事前に受講者から人事担当官へ連絡が無い場合もしばしば見られます。日本では当たり前のことですが、そこはまだまだ発展途上のシエラレオネです。

まずは、人事担当官が職員の動向を把握することから始めなければいけません。評価体制の構築までは長い道のりかもしれませんが、それでも一步一步確実に県議会の能力向上を支援していきます。

反町専門家（研修計画担当）

4. 新企画：あの供与機材は、今、..。

本プロジェクトでは県議会や本省の要請に基づいて、円滑な業務を遂行するために必要な機材を供与しています。車両、単車、コピー機、PC プリンタなどの機材を有効に活用することで、カウンターパートの日々の業務効率を高め、その結果、業務効果が高まることが期待されます。

これまでの供与機材に関してどういう形で報告すべきか。機材一覧を作成することで、品目、金額の概要を示すことができます。ただし、それぞれの機材がどのように活用され、感謝されているかは見えてきません。そして、プロジェクトが供与する機材は供与された側にとって何を意味するのか？

供与された者にとって、業務の効率性云々もあるでしょうが、やる気を高め、個人の存在価値、役割、プライドをくすぐるという見えない効果があって、その結果、サイト訪問の数や頻度が高まり、定期的な報告にもつながっていくのではないのでしょうか。

ということで、カウンターパートによる供与機材の活用を追跡する場合に、使用者の業務姿勢を把握して一つの報告となるかも知れません。

ひとつの例としてはカンビア県議会の人事担当官であるアブデュール氏があげられるかもしれません。彼には本プロジェクトから単車を貸与していますが、日本で生活改善に係る研修を受講したことをきっかけに、ホームガーデンの普及に取り組んでいるとのこと。残念ながら未だガーデンを視察できていませんが、追々彼の計画をより詳しく教えてもらおうと思います。その単車はその彼の計画にも使用されていることは言うまでもありません。



県議会に供与したバイクにまたがる県議会
人事担当官

田中専門家（業務調整）

5. 現地研修を開始して -カウンターパートの議論がしっかりしています-

今回、ジュニア専門員の現地研修（OJT）として2月1日から約8週間、本プロジェクトで受け入れていただいています。その後、今年5月から村落開発専門家として本プロジェクトに派遣予定です。

シエラレオネというと、留学中に平和構築のケーススタディで学んだ血なまぐさい紛争のイメージが強かったです。しかし、プロジェクトの活動地であるポートルコ県やカンビア県は、そう言ったイメージとは全く異なり、現地の皆さんの明るく人懐っこい笑顔にほっとさせられます。

特に、こちらの人々が宗教や民族の違いを問題とせず、とても平和的に共存しておられることです。例えば祈りを持って会議を終了



池上さん（写真右から2番目）。ポートルコ県の
プロジェクト事務所にて

するという、こちらの方々が宗教に対して敬虔である証と感じられる慣例がありますが、ムスリムもクリスチャンも一緒に祈ります。更に、村にはモスクと教会が両方あり、言葉の異なる民族の人がともにコミュニティを構成して、共存している、というお話も他の専門家の方々から伺いました。そこには、以前に赴任していた南北分離前のスーダンで見聞きしたような、いわゆる民族や宗教の違いを理由にした対立は全く感じられません。

またプロジェクトに関しても、現在まで数回モデルワード事業の会議や、説明会などに出席しましたが、カウンターパートである両県議会職員の議論の内容が、非常にしっかりしていることに感銘を受けました。これもプロジェクト開始当初の2009年から現在まで関わってこられた、すべての専門家の方々の努力の成果と実感しました。自分がそれを一層強いものになるよう活動せねばならない、と5月の本赴任を前に非常に気の引き締まる思いです。



ポートロコ県議会との会議の様子

現在は、現地のレオン紙幣のゼロの多さにとっさに円やドルに換算できず(1,000レオンが約20円だそうです)、買い物で一体自分がいくら支払っているのかわからない、まだまだ部外者の域を出ない状況です。一日も早く現地に慣れて、しっかりと準備をして5月からは本プロジェクトに貢献できるようにしたいと思います。宜しくお願い致します。

池上 聖 (経済基盤開発部 平和構築・都市・地域開発第二課 ジュニア専門員)

大好評のコラム：

6.1 コラム：ごっつあんです！シエラレオネ 第18話 -レバノン風大衆食堂-

シエラレオネには、レバノン人が多数住んでいます。イギリスがシエラレオネに入植を始めた直後からレバノンの人々も移住し始め、現在は3代目・4代目の世代まで暮らしているそうです。

シエラレオネのビジネスの多くはレバノン人が担っています。旅行会社、建設会社、不動産、資材屋、印刷屋、IT機器販売などなど自分で事業を興しているケースがほとんどのようです。私たちも仕事でレバノンの人たちが経営する業者と関わりを持つ機会があります。

シエラレオネに多数住むレバノンの人たちにとっても楽しみのひとつは外食。今回紹介するのは、レバノンの人たちのいわばファーストフード店あるいは大衆食堂ともいべきお店「Basha Bakery & Restaurant」です。



店先にあるグリルチキン。

店先には、「ジュー、ジュー」と音を立ててチキンをグリルするケースがあります。食欲をそそられます。お店の中に入ると、奥までどーん、と広がった食堂スペース。店員さんはリラックスし、お客さんも普段着でかざりつけなしの、大衆食堂の雰囲気。

いい感じで力の抜けた店員さんに、料理を注文して待っていると、お客さんがどんどん入ってきます。週末だからかもしれませんが、お客さんのほとんどはレバノンの人たちです。奥で注文してから、しばらくテレビを見ています。その後、アルミ箔に包まれた料理を受け取って、お店を出て行きます。お客さんのほとんどは「お持ち帰り」する人たちでした。

さあ、注文した料理が来ましたよ！

レバノン料理のフムス（中東で広く食べられている伝統的料理：ゆでたヒヨコマメにんにく、練りゴマ、オリーブオイルなどを加えてすりつぶしたペースト状の料理）、ファラフェル（水にもどしてからすりつぶしたヒヨコマメにパセリ、コリアンダーなどを混ぜてあげたもの）は手軽に食べられる一品。ひらしゅらんにとっては、前菜のような感じです。ファラフェルはコロッケみたいで、さくさくしておいしい。



外観からは想像できないお店の中。



写真右：手前からファラフェルとフムス、写真左：ボリュームたっぷりのエスカロップ

このお店の一押しは、レバノン料理とはいえませんが、牛肉をフライしたエスカロップです。ボリュームも味も素晴らしい。やわらかい牛肉の間にたっぷりのとろけたチーズが入っています。これに山盛りフライドライスもついています。全部食べると、その後、一食抜いてもいいくらいのボリューム。ふー、ごっつあんです。

このお店、焼きたてのクロワッサンやケーキもそろっています。ショーケースに入っているケーキを眺めるだけで幸せな気分になります。スイーツは甘さも控えめです。気軽に入れるお店、是非お試しください。



見事なケーキのラインナップ。

ひらしゅらんの独断と偏見の評価：★★★★☆。お腹がすいて倒れそうな時は、エスカロップを注文しましょう。

6.2 コラム ごっつあんです！シエラレオネ 第19話 ーちょっと見スイーツ、でもフルーツー

今回のごっつあんです！シエラレオネ
2話目はデザートを紹介します。

シエラレオネはフルーツ王国といっても過言ではないでしょう。一年を通じて
フルーツが楽しめます。

1年中あるのはバナナ、パパイヤなど、
2～4月はマンゴの最盛期、11月ごろから
オレンジ、グレープフルーツ、パイナップルなどが登場します。

今回はその中でも珍しいフルーツを紹介
します。その名も“アップル”。いや
いや、オリジナルの名前があるはず、と
思い、多くのシエラレオネの人に聞きま
したが、皆「アップル」と答えます。



これがシエラレオネのアップル。

見た目は決して「りんご」ではありません。むしろ色鮮やかな「スイーツ」に見えますが、実はフル
ーツ。

食べてみると、少し渋みがありますが、食感と味は梨に似てとてもさわやかです。食後のデザートにシ
エラレオネの“アップル”をどうぞ。

ひらしゅらんの独断と偏見の評価：★★★★☆。見た目と、食感・味のギャップに感動します。

次号へ続く

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上（CDCD）プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年10月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルコ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、田中専門家（業務調整）、宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理）、反町専門家（研修計画）、佐藤専門家（村落開発）、池上ジュニア専門員（村落開発）：2012年2月実績

